

登録番号 第 20863 号

ランネート™45DF

特長： ●広範囲の害虫に有効な殺虫剤です。
●優れた速効性と強力な殺虫効果があります。

ランネートは米国デュポン社またはその関連会社の登録商標です。

有効成分	メソミル (PRTR 法第1種)・・・45.0%	包装	100g×120 500g×24
性状	青色水和性微粒及び細粒	有効年限	4年
毒性	劇物	危険物	-

2019年8月28日現在の内容です。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メソミルを含む農薬の総使用回数
かぼちゃ	ワアブラムシ	1000倍	100～300 リットル/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
いちご	イチゴメチチュウ イチゴセチュウ	1000倍	100～300 リットル/10a	育苗期 定植後 生育初期	4回以内	散布	4回以内
	イチゴネムシ類	1000 ～2000倍	1～2 リットル/m ²	移植活着後 (育苗期)		灌注	
	コガネムシ類幼虫		2～3 リットル/m ²				
ピーマン(露地栽培)	タバコガ ハモンヨトウ	1000 ～2000倍	100～300 リットル/10a	収穫開始 14日前まで	4回以内	散布	4回以内
キャベツ	アオムシ コガ ヨウムシ ハモンヨトウ アブラムシ類 タマギンウバ	1000 ～2000倍	100～300 リットル/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
はくさい	アオムシ コガ ヨウムシ アブラムシ類	1000 ～2000倍	100～300 リットル/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時の土壌混 和は1回以内)
だいこん	アオムシ コガ アブラムシ類 ハマダラメカ	1000 ～2000倍	100～300 リットル/10a	収穫21日前 まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時の土壌混 和は1回以内)
こまつな	アブラムシ類	1000倍	100～300 リットル/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メソミルを含む農薬の総使用回数
フゲンサイ	アブラムシ類	1000倍	100～300 ℓ/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
かぶ	アオムシ アブラムシ類	1000倍	100～300 ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
カリフラワー	ヨウムシ アブラムシ類	1000倍	100～300 ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
ブロッコリー	ヨウムシ	1000倍	100～300 ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
	アブラムシ類	1000～2000倍					
レタス	ヨウムシ アブラムシ類	1000～2000倍	100～300 ℓ/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内 (植付時の土壌混和は1回以内)
	オタバコガ ナメクジ類	1000倍					
サタ菜	ヨウムシ アブラムシ類	1000～2000倍	100～300 ℓ/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内
	オタバコガ	1000倍					
ほうれんそう	ヨウムシ シキイロアザミウマ	1000～2000倍	100～300 ℓ/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内
	アブラムシ類	1000倍					
ねぎ	シロイモジヨトウ	1000倍	100～300 ℓ/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
	クハネノコバエ類 ネギアザミウマ	1000～2000倍					
たまねぎ	ネギアザミウマ	1000～2000倍	100～300 ℓ/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
しょうが	ハモンヨトウ	1000～2000倍	100～300 ℓ/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
ぼれいしよ	ジヤクイカガ ナストビハムシ ニジュウヤホシテントウ	1000倍	100～300 ℓ/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
	アブラムシ類	1000～2000倍					
かんしょ	ハモンヨトウ カシロシカバ	1000～2000倍	100～300 ℓ/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
だいず	ハモンヨトウ シロイモジマダラメイガ マシクガ カムシ類 ツメクサガ	1000～2000倍	100～300 ℓ/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内
えだまめ	ハモンヨトウ シロイモジマダラメイガ マシクガ カムシ類 ツメクサガ	1000～2000倍	100～300 ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メソミルを含む農薬の総使用回数
てんさい	ヨウムシ トビハムシ	1000 ～2000 倍	100～300 ℓ/10a	収穫 7 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内
にんじん	ヨウムシ ハモンヨトウ アブラムシ類 クハバネノコバエ類	1000 倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内 (は種前の土壌混 和は 1 回以内)
セリ	ヨウムシ ハモンヨトウ アブラムシ類	1000 倍	100～300 ℓ/10a	収穫 30 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
パセリ	アブラムシ類	2000 倍	100～300 ℓ/10a	収穫 30 日前 まで	1 回	散布	1 回
ごぼう	アブラムシ類	1000 倍	100～300 ℓ/10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
アスパラガス	ネギアザミウマ	1000 倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	1 回	散布	2 回以内 (散布は 1 回以内、 灌注は 1 回以内)
	ネギアザミウマ ナメクジ類		1～3 ℓ/m ²	収穫 3 日前 まで		灌注	
にら	ネギアザミウマ ネギニ類 クハバネノコバエ類	1000 倍	1 ℓ/m ²	収穫 21 日前 まで	2 回以内	灌注	2 回以内
らっきょう	ネギニ類	1000 倍	1 ℓ/m ²	収穫 21 日前 まで	2 回以内	灌注	2 回以内
食用ゆり	クハバネノコバエ類	500 倍	-	植付前	1 回	30 分間 種球浸漬	1 回
茶	ハモンヨトウ チャトゲコナジラミ	1000 倍	200～400 ℓ/10a	摘採 21 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	コクモノハキ チャハマキ チャホリガ ミドリヒメコバエ	1000 ～1500 倍					
	チャキイロアザミウマ ツマゲロアカスミカメ	1000 ～2000 倍					
たばこ	タバコガ ヨウムシ ハモンヨトウ	1000 ～2000 倍	25～180 ℓ/10a	収穫 10 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内

については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけること。
- (3) はくさいに使用する場合は、定植後 20 日以内では薬害のおそれがあるので使用しないこと。又、定植後 20 日頃に使用する場合は、低濃度 (2000 倍) で使用すること。
- (4) ジャガイモガに対しては、潜葉幼虫を対象に使用すること。
- (5) イチゴネグサレセンチュウ防除の場合、苗の移植活着後 (育苗期) に 7～10 日間隔で 2～3 回ジョロ等で灌注すること。
- (6) ミナミキイロアザミウマの防除に使用する場合、生息密度が高まると効果が劣るので、初発生をみたら直ちに散布す

- ること。なお、ミナミキイロアザミウマは繁殖が早いので、散布はかけ残しのないようていねいに行うこと。
- (7) ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若齢幼虫期に散布すること。
 - (8) 散布液の漂流飛散による危害を防止するため、特に水田転換作の大豆などに散布する場合は、フォームスプレー（泡散布）することが望ましい。
 - (9) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
 - (10) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
 - (11) 本剤の使用に当たっては、危害防止のため使用条件などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 医薬外用劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 作業中に、粉末や噴霧を吸い込んだ場合は、薬剤にさらされない場所に移り、安静にすること。薬液を多量に浴びたときには、衣服を脱ぎ、皮膚・眼をよく洗うこと。また、身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (3) 本剤による中毒に対しては、硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されている。呼吸が困難な場合は気道を確保すること。口移し人工呼吸は行わないこと。
- (4) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (5) 薬液調製時及び使用の際は、防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼するとともにうがいをすること。
- (6) 本剤の散布に当たっては危害防止のため、胸の高さ以下の作物に対して下に向けて散布することとし、作物が胸の高さを超える場合は絶対に散布しないこと。特にたばこでは、草丈が腰の高さの時までに散布すること。
- (7) 施設内において灌注処理を行う場合は、出入り口、天窗、側窓を開け、適宜、通気を確保して作業を行うこと。
- (8) 本剤の灌注処理に当たってはハス口状ノズルを使用すること。また、危害防止のためハス口状ノズルを腰より下に於て地面に向けて灌注すること。
- (9) 被覆中の茶園や施設内など、噴霧のこもりやすい場所での散布は行わないこと。
- (10) 高温多湿時の長時間作業及び疲労時の使用はさけること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。